

日本標準商品分類番号	872355
承認番号	61AM-1674
薬価基準収載	1986年 3月
販売開始	1986年 3月
再評価結果	1986年 12月
薬効分類名	下剤

日本薬局方

硫酸マグネシウム 恵美須

MAGNESIUM SULFATE

【組成・性状】

本品を強熱したものは定量するとき、硫酸マグネシウム(MgSO₄: 120.37) 99.0%以上を含む。

本品は無色又は白色の結晶で、味は苦く、清涼味及び塩味がある。本品は水に極めて溶けやすく、エタノール(95)にほとんど溶けない。

本品は希塩酸に溶ける。

本品 1.0g を水 20mL に溶かした液の pH は 5.0 ~ 8.2 である。

【効能・効果】

便秘症

【用法・用量】

硫酸マグネシウムとして1回5~15gを多量の水とともに経口投与する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること。）

- 腎障害のある患者
[血中マグネシウム濃度が上昇するおそれがある。]
- 高マグネシウム血症の患者
- 腸内寄生虫疾患のある小児[腸管よりマグネシウムが吸収されやすく、中毒を起こすおそれがある。]
- 心疾患のある患者
[マグネシウムは心機能を抑制する作用がある。]

2. 相互作用

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ニューキノロン系抗菌剤(シプロフロキサシン、ノルフロキサシン、トスフロキサシン) テトラサイクリン系抗生物質(ミノサイクリン、ドキシサイクリン、テトラサイクリン等) エチドロン酸二ナトリウム	これらの薬剤の効果が減弱するおそれがあるので、投与間隔をできるだけあけるなど注意すること。	マグネシウムがこれらの薬剤と難溶性のキレートを形成し、これらの薬剤の吸収を阻害すると考えられる。
塩酸リトドリン	CPK 上昇があらわれることがある。	

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

重大な副作用

マグネシウム中毒：多量投与により、まれに中毒を起こし、熱感、血圧降下、中枢神経抑制、呼吸麻痺などの症状があらわれることがある。解毒にはカルシウム剤を静注する。

4. 高齢者への投与

高マグネシウム血症があらわれやすいので、用量に留意すること。[高齢者では腎機能が低下していることが多い。]

5. 妊婦への投与

マグネシウムイオンは容易に胎盤を通過するため、まれに新生児に高マグネシウム血症を起こすことがある。

6. 小児等への投与

「慎重投与」の項参照。腸管粘膜に異常があつて、異常吸収を起こすことがある。

【薬効薬理】

本品は代表的な塩類下剤である。内服において腸管粘膜から吸収されにくいことから腸管内で高張液状態となり、腸内水分及び分泌液の吸収を妨げると共に、組織から腸管腔に水分を吸引して貯留させる。そのため、腸壁が刺激され、ぜん動運動が亢進して瀉下を招く。

【取扱い上の注意】

貯法：気密容器に保管

【包装】

500g

【主要文献及び文献請求先】

第14改正日本薬局方解説書

恵美須薬品化工株式会社 西成工場
大阪市西成区出城 2-2-20 TEL (06) 6561 5016

【製造発売元】

恵美須薬品化工株式会社
本社 大阪市中央区内平野町 3-3-2
工場 大阪市西成区出城 2-2-20